



TOYAMA
Prefectural
University

富山県立大学ニュース

平成25年3月発行
富山県立大学学生委員会

NO.98

第23回 県大祭



CONTENTS

- 退職にあたり
- News Digest
- 学生レポート
- INFORMATION など



機械システム工学科

教授 春山 義夫

平成2年4月初めに前任校の富山大学から開学当初の県立大学に赴任し、以来23年勤務させていただき本年3月末に定年退職します。富山大学での16年と合わせて39年間の長きに渡って大学で仕事をさせていただきましたことを大変ありがたく幸せに思っています。

初めの2か月間は研究棟がまだ完成していなく、専門の教員は製図室に一同に集まって居ました。最初は少し戸惑いましたが、お互いのことがよく解って良かったと後になって思いました。特に、他学科の先生を身近に感じるようになったことが大きな収穫でした。ひょっとしたら、教員を馴染ませるための県当局の図りなのかなとも思っています。



情報システム工学科

教授 中野 慎夫

平成7年4月1日、NTTヒューマンインターフェイス研究所の22年間の研究生活を終えて、富山県立大学での18年間の研究・教育生活がスタートしました。新しい大学という環境で、自分の研究室をどのように立ち上げようか、また院生、卒研生の研究テーマを何にしようかなど、胸をわくわくさせながら張りきっていたころの記憶は、今でもはっきり残っています。

私の研究分野はネットワークと画像関連の研究ですが、大学に来た頃は大きな戸惑いを

当初は、研究室の設備は無い、卒研の学生もいないという状態で、研究活動はやり難いものでしたが、大学設立のための多額の予算（初度調弁費）があり、大学院博士後期課程設置までを学年進行でやることとなっており、教職員は非常に明るく活気に満ちておりました。メンバー全員が同時に着任した訳で、何事も皆で知恵を出して一丸となって取り組んでいました。

これまでに研究室に所属した学生は150余名になります。根気のいる研究に取り組み、社会で活躍している卒業生を大変頼もしく、誇りに思っています。毎年、泊りがけで行ったゼミ旅行、忘年会なども懐かしい思い出です。

大学を取り巻く状況は、10年毎に大きく変わってきており、これから苦しいこともあるかと思いますが、明るく積極的に活動すれば道は開けるものと思います。

県立大学での23年間は半分くらいにしか感じません。居心地良く仕事をさせていただきました教職員の方々に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

感じていました。NTTでの研究環境と富山県立大学での研究環境が大きく違っていたからです。企業では、研究費は潤沢であるが組織としての研究であること、一方、大学では研究費は少ないが、自分がやりたいことが自由にできるというギャップです。

このため、まずは国や県からの補助事業の獲得や、地域企業との連携を図っていくことの重要性を強く感じてやってきました。企業研究とは違い、研究成果が地域に役立っているという喜びも感じる事ができました。また産官学の活動にも積極的に参加するようにしてきました。これによって多くの県内の企業、自治体のキーパーソンである人々とのネットワークが構築できました。

これまでの大学での経験や人のネットワークという財産を活かして、これからも微力ですが、地域の発展に少しでも貢献できるように活動していきたいと考えています。



本学教員の受賞について



環境工学科 川上 智規 教授

環境省 大気環境保全活動功労者表彰 H24.12.14受賞

受賞内容 大気環境の保全に係る活動に対して

<研究の概要等>

多年にわたり、地域特性に応じた富山県の大気保全対策の確立に尽力するなど、大気汚染の防止に関わる活動に従事し、大気環境保全に多大な貢献をしたことが認められ、受賞したものです。

本学学生の受賞について

本学学生が次のとおり各学会賞等を受賞しました。

受賞者	学科等	学会賞名
今井 悠貴	博士前期課程知能デザイン工学専攻2年	平成24年度電気関係学会北陸支部連合大会 優秀論文発表賞
大藪 勇希	博士前期課程知能デザイン工学専攻2年	平成24年度日本生体医工学会北陸支部大会 研究奨励賞
数井 雄也	博士前期課程知能デザイン工学専攻2年	平成24年度砥粒加工学会 優秀講演賞
高 源	博士前期課程知能デザイン工学専攻2年	日本知能情報ファジィ学会 第21回北信越支部シンポジウム 優秀発表賞
内藤 千裕	博士前期課程知能デザイン工学専攻2年	SICE Annual Conference 2012 SICE Hokuriku Young Scientist Encouragement Award
森 慧	博士前期課程知能デザイン工学専攻2年	SICE Annual Conference 2012 SICE Hokuriku Young Scientist Encouragement Award
室谷 将希	博士前期課程情報システム工学専攻2年	第20回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ(DPSWS2012) 優秀プレゼンテーション賞
川上 祥平	博士前期課程生物工学専攻1年	第16回生体触媒化学シンポジウム ポスター賞
今江 龍太	博士前期課程生物工学専攻2年	第16回生体触媒化学シンポジウム 優秀研究発表賞
高木 伸也	博士前期課程生物工学専攻2年	公益財団法人 日本農芸化学会中部支部第166回例会シンポジウム中部支部 企業奨励賞

平成24年度文部科学省公募事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に選定

産業界のニーズに対応した人材育成を進める文部科学省公募事業に、本学を含む中部圏の23校（幹事校：三重大学）が申請した取組である「中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化」が選定されました。

本事業ではアクティブラーニング（学生の能動的な学習を取り込んだ授業）を活用した人材育成や、地域・産業界との連携を通して、教育機関として自ら前に踏み出し、考え抜き、チームで働き、チャレンジする教育改革力の成長を目指します。

本学においても、これまでのキャリア教育プログラムを土台としてさらなるキャリア教育の充実を図り、産業界からのニーズに応えられる人材育成を行ってまいります。

平成24年度 富山県立大学環境講演会

10月18日(木)アイザック小杉文化ホール ラポールにおいて、「富山県立大学環境講演会」を開催しました。

この講演会は、環境問題に対する知識や問題意識を学ぶことを目的として、環境分野の第一人者をお招きするもので、学内外から幅広く聴講者を募り実施しました。

今年度は、「少子高齢化時代の経済と環境問題」という演題で、横浜市立大学グローバル都市協力研究センター特任教授 井村 秀文 氏に講演いただきました。

講演会では、人口の減少を踏まえた都市環境の整備や低炭素型社会の実現について図表データを用いながら分かりやすく解説いただき、総勢300名が熱心に講演内容に聞き入っていました。



とやま環境フェア2012

本学が全学横断的に取組んでいる環境教育プログラムを県民の皆様に広く紹介するため、10月20日(土)、21日(日)の両日、富山産業創造センター（高岡テクノドーム）で開催された「とやま環境フェア2012」に参加しました。

本学のブースでは、パネル展示のほか、パソコンを利用した「環境クイズ」や県立大学で収穫されたひまわりの花から種を取り、小型搾油機を用いて油を搾る「ひまわり搾油体験」の企画が実施されました。

当日は、多くの児童・生徒や父兄の方々为本学のブースに訪れ、楽しみながら環境問題や本学の取組みに対する理解を深めました。

富山県立大学秋季公開講座

10月20日(土)、11月10日(土)、11月17日(土)の3日間、本学大講義室において秋季公開講座を開催しました。

今回は、知能デザイン工学科の教員が講師となり「世界へ挑むものづくり技術」をテーマとして講演を行いました。精密加工学や計測工学など多岐にわたる分野の講義で、本学教員の教育・研究の成果を広く皆様にご覧いただき貴重な機会となりました。県内各地から延べ160名が参加され、皆さん熱心に講義を聴いておられました。



キャンパスに熱気あふれた「県大祭」

10月27日(土)・28日(日)に第23回県大祭が開催されました。

今回のテーマは「祭なう。」。様々な味が楽しめる模擬店、多様な参加型ゲーム、サークルの発表やコンテストなど、実行委員会が中心となって企画し、多くの学生たちが準備してきた魅力的なイベントが次々に行われました。

また、28日(日)には「AMEMIYA」「ゴー☆ジャス」「ラバーガール」の3組によるお笑いライブが行われ、おおいに盛り上がりました。

悪天候で実施ができなかったイベントもありましたが、学生はもちろん、地域の方々や子どもたちなど大勢のご来場をいただき、キャンパスは学生たちの熱気に包まれました。



富山県立大学第11回FD研修会

10月29日(月)、本学において、FD研修会を開催しました。FDとは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組のことで、平成14年度から毎年1回開催しており、今回で11回目となりました。

今回は、各学科における教育の現状、問題及び取組みを教員全体で共有することを目的として、まずは、前澤学長から、中央教育審議会、文部科学省の大学改革の動きと本学の教育課題について説明がありました。その後、教養教育を含めた各学科から教育上の課題やそれに対する取組みなどについて発表を行いました。

発表後の全体討議では、大変活発に意見交換が行われ、教員からは、「非常に密な情報交換ができた。」「若手教員の積極的な発言を心強く感じた。」という声が聞かれました。

市長と市内高等教育機関在学生とのまちづくりトーク

11月7日(水)に射水市役所小杉庁舎にて、夏野射水市長と市内高等教育機関在学生との意見交換会が開催されました。この意見交換会は、市の魅力を創出し、若者たちにとって住みたい、住み続けたいまちの実現に資するために開催されたもので、本学からは学生会に所属する4名の学生が参加しました。

「住みたいまち「射水」を実現するための方策」や「射水市が全国に知られるためには」などのテーマに沿ってフリートーク形式で行われ、公共交通機関や商業施設の充実、若者が中心となった市のイベントPRの実施など、射水市の魅力創出のため学生から具体的な意見が出されました。



とやま産学官金交流会2012

県内の企業、大学、研究機関の関係者が一堂に会し交流を深める「とやま産学官金交流会2012」が11月14日(水)にウイング・ウイング高岡を会場に開催されました。

今年は「産学官金連携が支えるとやまの“ものづくり”“ひとづくり”」をテーマに基調講演、ポスターセッション、パネルディスカッションが行われ、会場は多くの参加者で賑わいました。また、ポスターセッションには本学から27もの出展があり、本学の研究成果について活発な意見交換が行われました。



平成24年度 富山県立大学産学官連携環境シンポジウム — 持続可能な社会に求められる環境人材とは —



12月14日(金)富山国際会議場において、「富山県立大学産学官連携環境シンポジウム—持続可能な社会に求められる環境人材とは—」を開催しました。

このシンポジウムは、本学が取り組む環境教育や産学連携事業等について情報発信するとともに、企業関係者等に環境人材育成に対する理解を深めていただくことを目的としています。

当日は、基調講演として環境省 環境教育推進室長 宮澤 俊輔 氏に「企業等における環境教育の推進について」と題して講演をいただいた後、パネルディスカッションとして「産学官連携による環境人材育成」というテーマのもと、環境人材の育成をビジネスに繋げていくことの課題や有益性等について議論が交わされました。

学内合同企業説明会

12月15日(土)、16日(日)の2日間にわたり、本学大谷講堂で、学内合同企業説明会が開催されました。この企業説明会は、平成26年3月卒業・修了予定の学生が企業の業種・職種等について研究したり、企業の採用状況・求人日程などについて直接企業の人事担当者から情報収集を行うもので、2日間で延べ352名の学生が参加しました。

企業は1日目が県内企業を中心に47社、2日目が県外企業を中心に44社、計91社が参加しました。

スーツに身を包んだ学生達は、熱心に各企業のブースを回り、人事担当者のメッセージに耳を傾けていました。



「工学の魅力」紹介パンフレット『ほら！ここに工学！』を作成



本学では、県民の「工学」への理解をさらに高め、「工学」をより身近に感じてもらうことを目的として、「工学の魅力」を紹介したパンフレット『ほら！ここに工学！』を作成し、12月に全日制の県内高校1年生(約8,200名)に配布しました。

「工学っていつもそばにあるんだ。」というコンセプトのもと、家庭でも工学について話し合ってもらうきっかけとなるよう、身近に応用されている技術や、話題性のあるトピックを取り上げました。

このパンフレットは本学ホームページにおいても公開しています。



転出にあたり

東京大学大学院農学生命科学研究科

特任教授 尾仲 宏康

昨年9月末に生物工学科准教授を退職し、東京大学特任教授に着任いたしました。1999年、生物工学研究センター助手着任当初、県大は研究環境が大変素晴らしく魅力的でしたが、富山は私にとって初めての土地だったので大変不安でした。結局、皆様に暖かく迎えていただき、不安はすぐに吹き飛んだ事を憶えています。

在職中は、薬を作る微生物である「放線菌」が細胞内で薬を作る様子を明らかにし、遺伝子組換えで新薬を創出することを目指して研究しました。研究は道半ばで今も東大で続けていますが、富山での成果が認められ、2005年に日本放線菌学会浜田賞、2008年に日本農芸化学会奨励賞、そして2010年にとやま賞を頂きました。また、2006年から2011年までNEDOの産業技術研究助成に採択

され、2名の受託研究員と研究を進められたのも大変幸運であったと思います。2008年からは石川、福井県大と北陸合同バイオシンポを年1回泊まり込みで始め、北陸の多くのバイオ研究者とも交流することが出来ました。

教育活動では2007年からひまわりプロジェクトを始めました。加藤先生、岸本先生、中島先生、楠井先生にご尽力いただき、現在では1年生の必修科目にも組み込まれ、県大の特色ある実践型環境教育として定着したと思います。

2010年からは放線菌研究で培った微生物培養技術を利用して「とやま生まれの酵母」を高岡産大麦から分離し、地ビール「星の空」、清酒「尾仲」の発売に至りました。ちなみに今年は赤ワインが発売予定です。

東京大学での主宰講座は財団寄付講座であり、私自身は5年任期の身です。将来に対する不安はありますが、富山に赴任した時を思い出してチャレンジ精神で新しい世界に飛び込む決断を致しました。本学在職中は皆様には大変お世話になりました。富山は私の第二の故郷であり、今後も皆様との交流が続くことを希望します。最後に県大の皆様のごさらなるご発展を祈念して退任のご挨拶とさせていただきます。

瀋陽化工大学に留学して

生物工学科1年 高柳 綾奈

私は、大学在学中に、今まで体験した事がないことに挑戦し、自分探しをしたいと考え、その1つとして瀋陽化工大学への交換留学を希望しました。

瀋陽化工大学では、「中国事情」と「初級中国語」の2つの授業を受けました。

「中国事情」の授業では、中国の政治、歴史、文化や尖閣諸島の問題について勉強しました。授業の中で一番興味を持ったことは、一人っ子政策についてです。中国事情を教えてくださいました先生は、「子どもの教育費が高いため、共働きでも子供は一人で精一杯だ」と話していました。チューター*の意見も同様で、「今の中国は人口が多いため教育の質に差があるので、一人っ子政策は人々の教養を豊かにする」と話していました。私は、育てる子供の人数を決められるのは人生の自由を奪われている気がしていましたが、中国の方の意見を聞き、勉強になりました。



また、「初級中国語」の授業では、特に発音について学びました。日本の授業でも勉強していましたが、私は発音が上手くできず、意味が伝わりませんでした。授業の他にも中国語を徹底的に勉強するため、チューターの人に1対1で発音を教わり、間違えている発音を一つ一つ丁寧に直してもらいました。これは、留学したからこそできることだと思いました。発音指導の後には、中国と日本の習慣の違いや、中国の流行、恋愛事情などについて話をしました。

チューターの人とは朝から夜まで一緒に過ごしました。生まれた国も生活習慣も異なり言葉の壁もありましたが、お互いに相手を思う気持ちは同じで、聞く努力・分かりやすく伝える努力をして、理解し合うことができました。たった三週間でしたが、別れるときには涙が止まりませんでした。私は一生大切にしたい友達に出会うことができました。

今回の留学で、さまざまなことを学び、多くの刺激を受けることができました。中国は私が思っていた以上に発展していて、まだまだ知らない事がたくさんあると思いました。これからも中国語の勉強を継続して、再び中国に行きたいと思っています。また中国には、流暢な英語を話す学生も多くいて、英語修得の必要性を感じ、英語圏にも留学したいと思いました。将来は英語と中国語を話せるようになりたいです。大学生活の中でやりたいことをたくさん見つけることができた留学でした。

*チューター：留学生活を手助けする瀋陽化工大学の学生

情報システム工学専攻2年 上神 大



私は、現在大学院博士前期課程2年でこの春から働き始めます。今回の中国留学は様々なことを学ぶ絶好の、そして最後の機会となるかもしれないと思い、中国の人々の生活や風俗を現地で直接見たいと留学を希望しました。

留学中の生活をサポートしてくれる中国人チューターとの交流の中で、我々日本の大学生にはなかなか見られない意欲的な姿を多く見ることができました。英語のみならず日本語や様々な言語の習得に励む姿や、積極的に日本の状況を聞いてくる姿は印象的でした。また、彼らは自らの現状に満足しておらず、貪欲ともいえるほど積極的に自らの能力の向上や環境の改善を目指しており、学習に対する意欲が旺盛でした。高い給与や良い環境を求め、日本を含む海外で働きたいと考える様子は、

身近にいる日本の大学生にはあまり見られない姿のように感じました。意識の高い彼らは、我々日本の大学生にとって非常に強力なライバルとなると思いました。

去年の春まで就職活動をしていましたが、多くの企業説明会で耳にし、感じたのは、海外での事業拡大の話と海外学生採用に意欲的な姿勢でした。我々の世代は、これまでに増して、自らの能力を向上させ、国内のみならず海外の様々な国の学生を意識し、しのぎを削っていかねばならないだろうと肌を感じました。社会に出た後も、海外のライバルに危機感を持つことで、自らの向上に励み、絶好の機会を逃したり、それに伴った後悔をしたりしないように歩んで行きたいと思いました。

最後に、今回の留学はわずか三週間という短期間ではありましたが、非常に貴重な体験と経験を得ることができ、私がこれまで歩んできた、そしてこれから歩んで行く人生において、掛け替えのないものになりました。中国の人々の日常生活における元気な姿や、中国人大学生の真摯な勉学へ励む姿を見たことは印象的であり、身が引き締まる思いをしました。これから社会に出る私にとって、今後、海外留学の経験を持つことはなかなか難しいかもしれませんが、しかし、積極的な学習の姿勢を持ち、新たな体験や経験を得る機会を見つけ設けることで、自らを充実させていきたいと思っています。

富山県立大学県民開放授業(オープン・ユニバーシティ)

～平成25年度前期受講生募集～

本学では、地域の皆さんに正規の授業を公開する県民開放授業（オープン・ユニバーシティ）を実施しています。

4月から開始する前期授業においても、教養教育科目、機械・電子系専門科目、バイオテクノロジーや環境工学に関する専門科目など約100科目のバラエティに富んだ授業を公開します。

公開科目の中からニーズにあった講義を選んでいただくため、実際の授業を試聴いただいた上で受講科目を決定することができます。皆様のお申込みをお待ちしています。

開講予定科目

一般教養科目から各種専門科目まで、バラエティに富んだ授業を公開します！

一般教養科目

社会学Ⅰ、経済学Ⅰ、芸術学Ⅰ など

工学部専門科目（機械・知能・情報・生物・環境）

工業力学、メカトロニクス概論、ソフトウェア工学、生命科学史、環境政策論 など

スケジュール

募集期間 平成25年3月21日(木)～4月5日(金)

試聴期間 平成25年4月11日(木)～4月25日(木)

授業期間 平成25年4月11日(木)～7月31日(水)

受講料

1科目5,000円（複数科目の受講可）

申込方法

「受講希望調書」を地域連携センター受講生窓口に持参、郵送、FAX又は電子メールでお申込みください。受講希望調書、科目、スケジュール等はホームページに掲載します。詳しくは下記大学ホームページにてご確認ください。（3月頃掲載予定）

<http://www.pu-toyama.ac.jp/kenmin/zenki/index.html>

○募集要項請求先・問合せ先

富山県立大学地域連携センター（受講生窓口）

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

TEL：0766-56-0604 FAX：0766-56-0391

E-mail：openuniv@pu-toyama.ac.jp

URL：http://www.pu-toyama.ac.jp/local/kenmin.html

学位記授与式

平成24年度の学位記授与式を小杉文化ホールラポールにて執り行います。

また、授与式後、本学大谷講堂にて後援会及び卒業生一同による「卒業記念・謝恩パーティー」を行います。

【授与式】

◆日時：平成25年3月25日(月) 午前10時～

◆会場：アイザック小杉文化ホール ラポール（射水市戸破1500番地）

【卒業記念・謝恩パーティー】

◆日時：平成25年3月25日(月) 午後0時30分(予定)～

◆会場：本学大谷講堂

SCHEDULE 平成24~25年度

	大 学 院	工 学 部
4日(月)~6日(水) スキー講習会 25日(月) 学位記授与式	3月	8(金) 一般入試(前期日程) 合格発表 23(土) 一般入試(後期日程) 合格発表
8日(月) 入学式	4月	8(月)~10(水) オリエンテーション 8(月)~10(水) 学生定期健康診断 11(休) 前期授業開始
24日(金) 学生球技大会	5月	

CAMPUS NOTE

茶道部



皆さんこんにちは、茶道部です。茶道部というと、「女性中心」「和服」「厳しい」等のイメージが思い浮かびやすいかとは思いますが、私たちの茶道部は「男性中心」「茶会はスーツ」「アットホーム」というおおよそ一般的なイメージの「茶道部」らしからぬ「茶道部」です。しかし、資格を持った正式な先生を招いての稽古や、先輩・先生方の人柄、雰囲気のおかげか、今は週に1回の稽古にプラスして、週にもう1日、自主練習日を設ける等、部員一同はとても真面目に茶道に取り組んでいます。茶道は、単純に茶事だけではなく、茶会での年配の方々との交流を通じた「社会経験」や、実生活に役立つ様々な「心」を学ぶことの出来る素晴らしいものであると私は思います。そして、それらの多くは恐らく貴方の人生の中でかけがえの無い財産とすることが出来るのではないのでしょうか？そんな感じで、大学のスミにある茶室にて待ってまーす。

編集後記

これは、前の職場の若い研究員に話をしていた事です。

本学に着任してからは、学生達特に研究室の学生に対してですが、3つのC (Communication, Challenge, Creative) と2つのP (Positive thinking, Passion)の大切さを話してきました。

周りの人たちとのCommunicationを十分に取って下さい。これがしっかり出来ていれば、友達同士、教員との信頼関係の構築ができ、相手の気持ちを思いやる事も出来るようになると思います。そうなれば、全国的にも問題となっているアカデミックハラスメントの問題の多くは、解決されるものと確信しています。

24年度入学式の学長訓示の中では、挑戦(Challenge)すること、好奇心(Curiosity)を持つことの大切さについて話がなされていました。確かに、学生の皆さんにはCreative(創造的な)よりCuriosity(好奇心)のほうがより適切ですね。これからは、Creativeの代わりにCuriosityを使わせてもらおうと思っていますが、学生の皆さんには、是非、好奇心をもって、何事にも挑戦してもらいたいと思っています。その挑戦を通して、多くの失敗を経験しながら大きく成長して欲しいと思います。

天才騎手と言われている武豊騎手が27年間で3500勝を挙げたということが話題になっていましたが、本人曰く、まだまだです。優勝の陰に1万4000回以上のレースでの負けを経験し、その負けのたびに、「次は頑張ろう」と常に前向きに進んで来ました。と語っています。

失敗した(思いどおりに上手くいかなかった)数だけ成長できる、失敗が次の成功に繋がると、積極的な思考(Positive thinking)で、何事にも取り組んで行きたいものです。

また、学業に限りませんが、何か夢中になれるものを見つけてください。夢中になれるものは、自ら進んで学び、経験出来るものです。それだけ、他の人よりも詳しく、深く知ることが出来ます。そうしたら、その事を周りの人に熱く語って(Passion)周りを巻き込み、沢山の仲間を作ってください。

学生達にはこのような話をしていますが、しっかりと受け止められていないように感じています。

先日、来日していたアメリカの俳優のトムクルーズに今年1年間の目標についてのインタビューがなされているテレビをみました。トムクルーズは、「毎年変わらないのですが、挑戦することを止めないことです。」とインタビューに答えていました。

素晴らしいですね！私も、学生達そして自分自身に対して、これからも3つのCと2つのPをいい続ける、問い続ける事を止めないようにしたいと思います。

(学生部長 松本 三千人)



この用紙は資源保護のため、インキは植物油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。